

内閣総理大臣 安倍晋三 様
防衛大臣 中谷 元 様
米国大統領 バラク・オバマ様
四軍調整官 ローレンス・ニコルソン様

米兵による女性への性暴力事件に強く抗議します！

2016年3月13日、またしても米兵による女性への人権を蹂躪する性暴力事件が起きました。女性に対するこのような行為は、肉体的、精神的苦痛を与えるだけでなく、人間としての尊厳を蹂躪する極めて悪質な犯罪であることは言うまでもありません。沖縄にとってこの事件の意味することをあなた方はどれだけ感じ取っておられますか？ 一人の女性の人権蹂躪に留まるものではなく、沖縄の歴史にまた新たな差別の傷痕を刻むことになるのです。沖縄の施政権が日本に返還された1972年以降、米軍関係者による刑法犯摘発は2015年末時点で5896件、5815人に上り、このうち女性暴行事件は今年最初に摘発された今回の事件を含めると130件、148人となります。これらの数字を見る時、私たち沖縄住民は、常に暴力に怯えつつ、日常を送らざるを得ない状況があるということです。その根本には、余りにも沖縄に過重な米軍基地が集中していることによって、住民の安全が脅かされ、人権が蹂躪され続けているということです。

去る3月21日、名護市辺野古のキャンプ・シュワブ前で開かれた米兵による女性暴行事件に抗議する「緊急県民抗議集会」には、2500人が集まりました。目標の千人を大きく上回る人々が駆け付けたのです。事件に対する沖縄の人々の怒りが大きいことを示すものであり、日米両政府はこの現状を深刻に受け止めるべきです。性的暴行という犯罪は相手の気持ちを踏みにじり一方的な力でねじ伏せて陵辱する非道行為です。今回の集会では「すべての米軍は沖縄から撤退すること」を求める決議が採択されました。新基地だけでなく全基地撤去を求めたのです。これ以上、軍事基地による人権蹂躪を繰り返すことは決して許されないという沖縄の憤りがそこにあるのです。

以上のことから、私たち普天間バプテスト教会は、米兵による女性への性暴力事件に強く抗議します。

2016年4月3日
普天間バプテスト教会役員会決議